



学校だよい「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～

平成 30 年 5 月 8 日 発行 No.5 文責 塩川小学校長 佐藤 寅記

上昇気流に乗って！



「あいさつのか」パワーアップ ～共助・協働、コミュニケーションのか～ 【その1】

前号で、地域の方からのうれしいお手紙を紹介させていただきました。今回は、子どものうれしい行い・手紙をご紹介します。

その手紙は、5年生のSさんから、登校の見守りをして下さっている伊藤さん、五十嵐さんに宛てたものでした。

伊藤さんへは、「おばさんの素敵なおところは、いつも元気、いつも笑顔で勇気づけてくれます。握手をすると、すごく元気が出て頑張ろうという勇気がわいてきます。」(抜粋)

五十嵐さんへは、「五十嵐さんは、あいさつの手本となる先生です。そのお陰で、私は元気にあいさつできるようになりました。1年生の時から、ずっと見守ってくれていたのだから、私の先生です。」(抜粋)



Sさんからの手紙を手に、感謝する五十嵐様(左)と伊藤様



街中で「あいさつ運動」する



はりきって運動する4年生の運営委員

【その2】

児童会運営委員会の「あいさつ運動」に、工夫と改善がみられました。

一つ目の工夫は、6年生の運営委員が街に出てあいさつ運動をしたことです。地域の方にもあいさつすることで、街中に「さわやかなあいさつ」が広まっていくことが期待できます。

二つ目は、児童玄関前で運動している4年生と5年生の運営委員が、「名前を付けてあいさつ」していたことです。先生に言われるからではなく、子ども達が自発的に行っていたところに、自覚の高まりを感じました。

（上）縦割り班でゲームを楽しむ。
（下）体育館に、集団登校班ごとに速やかに集まる。



比田井和孝氏は、「あいさつ」の本来の意味は、「**相手の存在を認め、相手に対して心を開くこと**」と言っています。名前を付けてあいさつすることのよさは、そこにあります。また、相手に対して心を開くから、その相手も心を開いてくれます。ですから、Sさんとお二人の交流が生まれたのは必然なのです。

Sさんと運営委員の行い・活動には、こうした価値が含まれています。子ども達は、「あいさつ」を通して、**共助・協働、コミュニケーション**の力を高めています。

みんなで遊ぼう ～潤いある学校生活～

不安でいっぱいの新入生に安心してもらおう、上級生と下級生が協力して生活できるようにしようとのねらいで、縦割りの班を編成して「みんなで遊ぼう」を行いました。

ハンカチ落としや伝言ゲーム、魔法のじゅうたんなどで、心と体の触れ合いを通して充実した時間を過ごしました。

集団下校訓練 ～もしもの事態に備えて～

大地震、不審者、自然災害等に備え、集団下校訓練を実施し、緊急時の速やかな集まり方と安全な集団下校について学びました。

震度5以上の大地震の場合は、下校させずに学校に待機させます。必要な場合は、保護者のお迎えをお願いすることになります。